

- Alcohol Dependence Scale (25 項目) (Skinner & Horn, 1984)
- Drug Use Screening Inventory (159 項目) (Tarter & Hegeudus, 1991)
- Drug Abuse Screening Test (DAST) (28 項目) (Skinner, 1982)

評価法のその他の問題

- 患者の物質乱用が活発な場合、履歴を入手し、身体検査と実験室検査を行う。
- 患者が医学的または精神医学的に不安定な場合、あるいは急性中毒の場合、安定させるためのケアを施す(つまりプライマリケアの医師と相談する)。

役に立たない評価法は？

MMPI や投影検査など、従来の心理テスト

治療法

効果的な治療法は？

- 1) 患者、家族、関係者に、物質乱用の症状と治療法についての心理教育を行う(内容については下記のウェブソース参照)。
- 2) セルフヘルプ(たとえばアルコール中毒者更生会)
 - 一部の患者にとってセルフヘルプグループへの参加が重要な補助となる。
 - 患者の支えとなり、教育効果や治療効果がある。
 - 向精神薬(抗うつ薬)の投与が必要な患者は、このような治療を支えるグループに誘導する。

445

役に立つウェブサイト

- HabitSmart Site: [様々なアディクションや衝動コントロール法について豊富な情報を提供する] <http://www.habitsmart.com/>
- National Clearinghouse for Alcohol and Drug Information: [アルコール、タバコ、薬物に関する検索可能なデータベースや物質乱用予防用教材が利用できる] <http://www.health.org/>
- Web of Addictions Site: [アルコールや他の薬物中毒に関する正確な情報を提供する] <http://www.well.com/user/woa/>
- National Institute on Drug Abuse: [ウェブリソースへの様々なリンク、様々な薬物に関する情報、最近の理論および実験に基づく出版物を提供する] <http://www.nida.nih.gov/>

上記のソースでは、様々な薬物中毒に関する心理教育教材、治療法、最近の研究を紹介している。

効果的なセラピストによる治療法は？

Beck, A. T., Wright, F. D., Newman, C. F. & Liese, B. S. (2002). *Cognitive therapy of substance abuse*. NY: Guilford. \$24.00

これは、物質乱用に取り組むための、十分な資料に裏付けられた費用効果の高い心理社会的治療モデルを紹介した本である。

447

3) 認知行動療法 (CBT) (『Beck, Wright, Newman, & Liese, 2002』参照)

- 標準的な認知療法：不適当な思考を修正する(前記の「パニック障害」参照)
- 再発予防：認知行動療法によって患者にセルフコントロールを身に付けさせ、再発を防止する。
- 動機付け面談(『Miller & Rollnick, 1991』参照)：感情移入法によって患者を動機付ける。

4) 家族セラピーまたはカップルセラピー：機能障害の家族が、思わしくない治療結果に関係している(See Wakefield, Williams, Yost, & Patterson, 1996)。

- 断酒のために家族のサポートを奨励する。
- 対立を招いたり物質使用行動を許したりする対人関係や家族関係に対処する。
- 再発予防を促すとともに回復の可能性を高めるような行動を強化する。

5) 投薬療法(下記参照)

効果的なセルフヘルプ療法は？

1. Alcoholics Anonymous World Services. (2001). *Alcoholics anonymous* (4th ed.). New York: Author. \$12.00

2. Ellis, A., & Vellen, E. (1992). *When AA doesn't work For you: Rational steps to quitting alcohol*. NJ: Baricade Books, Inc. \$12.00

446

Cummings, N.A., & Cummings, J.L. (2000). *The first session with substance abusers: A Step-by-Step guide*. San Francisco, CA: Jossey-Bass (now John Wiley).

これは、初回セッションで反抗的な相談者の物質乱用を見つけるのに役立つ情報を臨床医向けに紹介した本である。臨床医が最も効果的な治療モダリティを選び、危機への対処や相互目標の設定、必要な紹介を行う上で役に立つ情報を事例とともに記載している。

Wakefield, P. J., Williams, R. E., Yost, E. B., & Patterson, K. M. (1996). *Couple therapy for alcoholism: A cognitive behavioral treatment manual*. New York: The Guilford Press.

これはセラピスト向けマニュアルで、アルコール中毒のカップルを対象とした20回のセッションに沿って認知行動療法を解説している。各セッションには単独使用も他のセラピーとの併用も可能な介入案を提示し、事例や演習も記載している。

Miller, W. R., & Rollnick, S. (1991). *Motivational interviewing: Preparing people to change addictive behavior*. New York: The Guilford Press.

これは、物質乱用患者に動機付け介入を施すための戦略や手法を紹介した本である。

先に挙げたその他の CBT リファレンスも、物質乱用を対象とした CBT を実施する上で参考になる(大うつ病の治療に関するガイドラインを参照)。

有効な投薬療法は？ 医師に相談

最も有力な証拠が、アルコール乱用に対するナルトレキソン(ReVia)とジスルフィラム(Antabuse)の有効性を裏付けている。ナルトレキソンは、患者によっては再発予防に有効である。これはアルコールの影響を一部弱める効果もある。ジスルフィラム

448

(Antabuse) は、患者が少量でもアルコールを口にすると強い嫌悪を引き起こす。ただし、この薬品の投与は、モチベーションがあって信頼できる患者が成り行きで飲酒をする可能性がある場合に限定することを勧める。衝動的な行動、精神病症状、自殺の意図が見られる患者には勧められない。

コカイン乱用にはデジブラミンとアマンタジンが有効

オピオイド乱用にはメサドンまたは LAAM とナルトレキソンが有効

有害反応

1) ナルトレキソン: (多い副作用) 腹部のけいれんや痛み、不安、神経質、不穏、睡眠障害、頭痛、関節痛や筋肉痛、吐き気や嘔吐、異常な疲労、(まれな副作用) 悪寒、便秘、咳、鼻水や鼻詰まり、副鼻腔障害、くしゃみ、喉の痛み、下痢、動悸、食欲減退、男性の性功能障害

2) ジスルフィラム: 必要な副作用とともに、眠気、気分の変化、しびれ、刺痛、痛み、手足の脱力感など、望ましくない副作用もある。

3) デンブラミン: 目まい、眠気、口の渇き、頭痛、食欲増進 (甘味嗜好が強まる場合もある)、吐き気、疲労や脱力感、味覚障害、体重増

4) アマンタジン: 集中できない、目まい、頭痛、過敏、食欲減退、吐き気、神経質、肌のかゆみ、不眠や悪夢

5) メサドン: 目まい、失神、眠気、吐き気や嘔吐、便秘、食欲減退、胃のけいれんや痛み

6) LAAM: 腹部の痛み、便秘、全身の不快感や疾患、関節痛、男性の性的機能障害

449

注意欠陥多動性障害

注意欠陥多動性障害 (ADHD) とは？

「同等の発達レベルにおいて通常より顕著かつ症状の重い不注意や活動過多の永續すること。ADHD の特徴として、以下に示す不注意や活動過多の症状のうち 6 つ以上が少なくとも 6 ヶ月間見られる」(DSM-IV, American Psychiatric Association, 1994)。

不注意

- 細部に注意しない。
- 注意の持続が難しい。
- 話を聞き取らない。
- 指示に従うのが難しい。
- 整理するのが難しい。
- 精神的努力の持続が必要な課題を回避する。
- 課題や活動に必要なものを頻繁に失う。
- 注意散漫になりやすい。
- 忘れっぽい。

活動過多

- 落ち着きがない。
- 教室の席を頻繁に離れる。
- 不適切な状況で、頻繁に這い回ったり走り回ったりする。
- 大人しく遊ぶのが難しい。
- 「モーターで動いている」ような行動

451

治療管理上のその他の問題

- 投薬療法は、心理社会的治療法と併用すると効果が高まる。
- 心理社会的治療法は、投薬療法と併用すると再発の予防や低下に効果がある。
- 投薬は、一部の患者に対して断酒効果はないが、物質使用のマイナス効果を抑えることで罹患率や死亡率を下げる。
- 投薬療法は、通常はコカイン使用の初期治療として指示されない。

治療法を選ぶ方法は？

- 薬の副作用の可能性を評価する。
- これまでの治療効果
- 患者の好み (たとえば精神療法と薬物療法のどちらを選ぶか)
- 治療費、所要時間 (患者とヘルスケア提供者の両者の立場から)
- 治療モダリティによるコンプライアンス (または治療アドヒアランス) の違い
- 身体の状態 (たとえば身体の変遷候群は見られるか?)
- 自殺の危険性

450

- 過剰なおしゃべり

- 不適切な答えを口走る。
- 順番を待てない。
- 頻繁に他人の邪魔をする。

- 上記症状の一部は 7 歳未満で現れる。
- 複数の場面 (たとえば学校と家庭) で機能障害が見られる。
- 学校や職場で機能障害の明確な証拠が見られる。

ADHD に関する基本的事実

- 慢性になりがち
- 反抗挑戦性障害、行動障害、不安障害、うつ病などのコモビディティが多く見られる。
- 注意や精神的努力の持続を要する状況や本来の訴求力や目新しさのない状況で症状が悪化する傾向がある。
- 子供の 3~5% が ADHD である。
- ほとんどが 7 歳までに発症する。
- 罹患率は男性の方が高い。
- ADHD は様々な地域で発生するが、特に西欧に多く見られる。

452

評価法

除外するものは？

(1) 年齢に見合った発達、(2) 学術的環境の過剰刺激と過剰刺激、(3) 精神遅延、(4) 反抗的行動、(5) 精神疾患のいずれかに起因する分裂的行動

効果的なアセスメントに関係するものは？

診断／評価の全般的アプローチ:

- 児童の成人介護者との包括的な面談
- 児童の精神鑑定
- 健康全般と神経学的状態の医学的診断
- 認知能力と成績の評価
 - Woodcock-Johnson (WJ-III) Tests of Cognitive Abilities (試験と購入については「Riverside Publishing」(<http://www.riverpub.com>) 参照)
 - Stanford-Binet Intelligence Scales, Fifth Edition (「Riverside Publishing」も参照)
 - Wechsler Intelligence Scale for Children, Fourth Edition (試験と購入については「Psychological Corporation」(<http://www.psychcorp.com>) 参照)
- ADHDを中心とした教師と親の評価尺度の使用(下記参照)
- 必要に応じた学校報告と他の補助的評価(たとえばスピーチ、言語アセスメントなど)

453

- ADHD Symptom Checklist-Parent Checklist (50項目)(『Gadow & Sprafkin, 2002』参照)
- Conners' Rating Scales-Revised (CRS-R) (27～80項目)(親の簡略式評価尺度については『Conners, 1997』参照, 27項目)

役に立たない評価法は？

MMPIや投影検査など、従来のアセスメントは役に立たない。診断用マーカーはない。

治療法

効果的な治療法は？

- 1) 家族、教師、その他、その児童を直接ケアする成人に、心理教育を行う。
 - 症状についての情報を提供する。
 - 症状に対する家族や教師の反応を更新しモニタリングする。
 - ADHDについて児童に発達に応じた教育を施し、その内容を成長に合わせて更新する。
 - 医療関連サービスと連携して支援する。
 - 家族や教師に児童の日課に関する目標を設定させる。
 - 社会支援を利用する場合に家族を支援する(たとえばADHDの子供をもつ他の家族と結び付ける)
- 2) セルフヘルプ(下記参照)

455

個別の診断／評価ガイドライン(『American Academy of Pediatrics, 2000』を改変)

- 不注意、活動過多、衝動性、基準以下の成績、行動障害が見られる6～12歳の児童にはADHDの検査を行う。
- ADHDの診断は、対象とする児童がADHDのDSM-IV基準を満たしていることが前提となる。
- ADHDのアセスメントには、下記について成人介護者から直接得られた証拠が必要である。
 - 様々な場面で見られるADHDの主な症状
 - 発症年齢
 - 症状の持続時間
 - 機能障害の程度
- ADHDのアセスメントには、下記について担当教員(または他の学校の専門家)から直接得られた証拠が必要である。
 - ADHDの主な症状
 - 症状の持続時間
 - 機能障害の程度
 - 共存する症状
- ADHDの児童の評価には、付随(共存)する症状の評価も含める。

医療現場でADHDのスクリーニングに用いる評価基準

- ADHD Rating Scale IV-Parent & Teacher Scales (18項目)(『DuPaul, Power, Anastopoulos, & Reid, 1998』参照)

454

- 3) 行動療法(グループ単位でも個別でも可能、児童に対する行動療法の手法については下記の『Watson and Gresham』参照)
 - 行動を改善するための行動法(つまり緊急処理術)の訓練を親と教師に施す。
 - 望ましい行動に報酬を与え、目標が未達成の場合はその結果を示す。
 - 上記の手法を繰り返し適用すれば、児童の行動がしだいに形成される。
- 4) 親訓練(親訓練法については『Shriver in Watson & Gresham, 1998』参照)
 - 関連する場面(たとえば家庭や学校)での児童の問題行動に焦点をあてる。
 - 問題行動の現れ方について親を教育する。
 - 問題を特定する技術を教える。
 - 児童の行動の記録法
 - 児童の行動の機能を特定する。
 - 親の行動の機能を特定する。
 - 強化(たとえば賞賛)と罰(たとえばタイムアウト)の与え方を親に教える。
 - データ収集とレビュー
- 5) 教室管理
 - 活動体系を増やす。
 - 系統的な賞罰によって児童の行動を管理する。

456

- プラス強化：児童の行動に応じて報酬や特典を与える (たとえば、宿題をしたらコンピュータで遊ぶのを許可する)。
 - タイムアウト：望ましくない行動や問題行動に応じて、プラス強化の権利を取り上げる (たとえば、仲間を叫びたら教室の隅で座るように命じる)。
 - 反応コスト：望ましくない行動や問題行動に応じて、報酬や特典を取り上げる (たとえば、宿題をしなかったら自由時間を取り上げる)。
 - トークンエコノミー：望ましい行動に応じて報酬と特典を与え、望ましくない行動に応じて報酬と特典を取り上げる (たとえば、宿題をしたら得点を与え、しなかったら減点する。週の終わりに点数を報酬に換える)。
- 目標に関する児童の行動を定期的に (毎日または毎週) 記録カードに記録し、これを児童の親に伝える。これによって、親は子供の行動を確認できる。

6) 投薬 (下記参照)

効果的なセルフヘルプ療法は？

ADHD の児童とその親にとって参考になる図書を以下に挙げる。

Nathan, P. E., & Gorman, J. M. (Eds.) (1998). *A guide to treatments that work*. New York: Oxford University Press.

有効な投薬療法は？ 医師に相談

最初の治療法: メチルフェニデート (たとえば Ritalin) とアンフェタミン (たとえば Adderall) などの興奮剤

次の治療法: 興奮剤が効かない患者には TCA や SSRI を処方してもよい。

有害反応

1) メチルフェニデート (重大な副作用): アレルギー反応 (呼吸困難、喉の閉塞、唇や舌、顔の腫れまたは発疹)、不整脈や動悸、胸痛、異常な高血圧、肝臓損傷。(重大でない副作用): 不眠、神経質、眠気、目まい、頭痛、眼のかすみ、チック (反復運動)、腹痛、吐き気、嘔吐、食欲減退や体重減、発育の遅れ。薬物依存の可能性もある。

2) アンフェタミン (たとえば Adderall): 食欲不振、体重増、不眠、頭痛、目まい、神経質、口の渇き、GI障害、アディクション、高血圧

治療管理上のその他の問題

- 親訓練のプラス効果は、通常 8 週間以内に現れる。
- 親訓練は通常 8~12 週間のコースである。
- 臨床医は投薬量を段階的に増やす。
- 一番良いのは、最小限の副作用で最大の効果を引き出す投薬量である。

457

459

1. Barkley, R. A. (1995). *Taking charge of ADHD: The complete, authoritative guide for parents*. New York: The Guilford Press. \$14
2. Barkley, R. A., & Benton, C. M. (1998). *Your defiant child: eight steps to better behavior*. New York: The Guilford Press. \$12
3. Nadeau, K. G., Dixon, E. B., & Rose, J. (1997). *Learning to slow down and pay attention: A book for kids about ADD* (2nd ed.). Magination Press. \$9

役に立つウェブサイト

- 1) CHADD: [証拠に基づく ADHD 関連情報を、親、教育者、専門家、一般向けに提供する] <http://www.chadd.org/>
- 2) National Institute of Mental Health ADHD: [ADHD の症状、診断、治療法、最新の研究に関する情報を提供する] <http://www.nimh.nih.gov/publicat/adhd.cfm>
- 3) ADHD News: [ADHD 関連情報の大規模サイト。ADHD の患者と親の掲示板もある] <http://www.adhdnews.com/>

効果的なセラピストによる治療法は？

ADHD の児童と親を訓練するための行動療法については、下記のテキストが参考になる。

Watson, T. S., & Gresham, F. M. (1998). *Handbook of child behavior therapy*. New York: Plenum Press.

O'Donohue, W., & Fisher, J. (in preparation). Practice guidelines for evidence based psychotherapy.

- 症状管理に効果がある限り興奮剤を使用してもよいが、(たとえば夏の間) 投薬を止めても患者の調子がよいのであれば、投薬を止めてもよい。
- 最善の結果を得るには、投薬療法と行動療法 (や親訓練) を併用する。

治療法を選ぶ方法は？

- 薬の副作用の可能性を評価する。
- 患者 (と保護者) の好み
- 費用
- 治療モダリティによるコンプライアンスの違い
- 身体の健康状態

458

460

本章に未掲載の精神疾患に関する追加リソース

理論的理解, 評価, 様々な心理的障害の治療に役立つ情報や心理教育に関するリソースは, 本章に挙げた以外にもある。その一部を以下で紹介する。

1) The Task Force on Psychological Interventions Document Repository [Manuals for empirically supported treatments: 1998 update \(March 1998\)](http://pantheon.yale.edu/~tat22/empirically_supported_treatments_1998_update_(March_1998).). [過食症, 慢性的な頭痛や痛み, ストレス管理, カップル不和, 不安障害, 夜尿症, 児童の反抗的行動に関する, 経験に裏打ちされた治療マニュアルのリファレンス] URL :

http://pantheon.yale.edu/~tat22/empirically_supported_treatments.htm

2) WebMD: [総合的な情報サイト。心理教育のほか, 様々な心理的疾患や薬物乱用などの診断や治療法に関する情報を提供する] URL : <http://www.webmd.com/>

3) Psychiatry Source: [精神医療の最新ニュース, リソース, 実務ガイドライン, インターネットツールを提供する] URL :

<http://www.psychiatrysource.com/psychsource/desktopdefault.html>

4) American Psychological Association Online: [抑うつ, 不安障害, 夫婦不和, 子供の問題, ストレス, セックスなど, 様々なテーマに関する情報を提供する] URL :

<http://www.apa.org/>

5) American Psychiatric Association Online: [様々な精神疾患の実務ガイドラインを大量に紹介する] URL : http://www.psych.org/psych_pract/treatg/pg/prac_guide.cfm

その他の読本

Cummings, N. A., & Cummings, J. L. (2000). *The essence of psychotherapy: Reinventing the art in the new era of data*. San Diego, CA: Academic Press.

Cummings, N. A., & Sayama, M. (1995). *Focused psychotherapy: A casebook of brief, intermittent psychotherapy throughout the life cycle*. New York: Brunnel-Muzel, Inc.

O'Donohue, W., Fisher, J., & Hayes, S. (Eds.) (2003). *Cognitive behavior therapy: applying empirically supported techniques in your practice*. Hoboken, NJ: John Wiley & Sons

参考文献と出典リスト

Alcoholics Anonymous World Services. (2001). *Alcoholics anonymous* (4th ed.). New York: Author. \$12.00

American Academy of Pediatrics (2000). Clinical practice guidelines: diagnosis and evaluation of the child with attention-deficit/hyperactivity disorder. *Pediatrics*, 105(5), 1158-1170.

American Psychiatric Association. *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (4th ed.). Washington, DC: Author; 1994.

Antony, M. M., Craske, M. G., & Barlow, D. H. (1995). *Mastery of your specific phobia: Client workbook*. San Antonio, TX: The Psychological Corporation.

Babor, T. F., de la Fuente, J. R., Saunders, J., & Grant, M. (1992). *The Alcohol Use Disorders Identification Test. Guidelines for use in primary health care*. Geneva, Switzerland: World Health Organization, 1992.

Bandelow, B. (1999). *Panic and agoraphobia scale (PAS): Manual*. Germany: Hogrefe & Huber Publishing.

Barkley, R. A. (1995). *Taking charge of ADHD: The complete, authoritative guide for*

461

462

parents. New York: The Guilford Press.

Barkley, R. A., & Benton, C. M. (1998). *Your defiant child: eight steps to better behavior*. New York: The Guilford Press.

Barlow, D.H., & Cerny, J.A. (1988). *Psychological treatment of panic*. New York: Guilford Press.

Beck, A. T., Steer, R. A., & Brown, G. K. (1996). *Beck II manual*. San Antonio, TX: The Psychological Corporation.

Beck, A. T., Rush, A. J., Shaw, B. F., & Emery, G. (1979). *Cognitive therapy of depression*. New York: The Guilford Press.

Beck, A. T., Wright, F. D., Newman, C. F. & Liese, B. S. (2002). *Cognitive therapy of substance abuse*. NY: Guilford.

Bourne, E. (2000) *The Anxiety & Phobia Workbook* (3rd ed.). Oakland, CA: New Harbinger Publications, Inc.

Bourne, E. J. (2003). *Coping with anxiety: 10 simple ways to relieve anxiety, fear and worry*. Oakland, CA: New Harbinger Publications.

Bugental, J. F. T., & Sterling, M. M. (1995). Existential-humanistic psychotherapy: New perspectives. In A. S. Gurman, & S. B. Messer (Eds.), *Essential psychotherapies: Theory and practice* (pp. 226-260). New York: The Guilford Press.

Burns, D. D. (1999). *Feeling good: the new mood therapy* (2nd ed.). New York: Avon Books.

Chassin, M. R., & Galvin, R. W. (1998). The urgent need to improve health care quality: Institute of medicine national roundtable on health care quality. *Journal of the American medical Association*, 16, 1000-1005.

Conners, K. C. (1997). *Conners' Parent Rating Scales-Revised: Short Form (CPRS-R:S)*. North

Tonawanda, NY: Multi-Health Systems, Inc.

Coyne, J. C., Thompson, R., Klinkman, M. S., & Nease Jr., D. E., (2002). Emotional disorders in primary care. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 70, 798-809.

Craske, M. G., & Barlow, D. H. (2000). *Mastery of your anxiety and panic* (3rd ed.) (MAP-3): *Client workbook*. San Antonio, TX: The Psychological Corporation

Craske, M., Barlow, D. & Meadows, E. A. (2000). *Mastery of your anxiety and panic* (MAP-3): *Therapist guide* (3rd ed.). San Antonio, TX, The Psychological Corporation.

Cummings, N. A. (1977). Prolonged (ideal) versus short-term (realistic) psychotherapy. *Professional Psychology*, 8, 491-501.

Cummings, N. A., & Cummings, J. L. (2000). *The essence of psychotherapy: Reinventing the art in the new era of data*. San Diego, CA: Academic Press.

Cummings, N.A., & Cummings, J.L. (2000). *The first session with substance abusers: A Step-by-Step guide*. San Francisco, CA: Jossey-Bass (now John Wiley).

Cummings, N. A., & Sayama, M. (1995). *Focused psychotherapy: A casebook of brief, intermittent psychotherapy throughout the life cycle*. New York: Brunnel-Muzel, Inc.

DuPaul, G. J., Power, T. J., Anastopoulos, A. D., & Reid, R. (1998). *ADHD Rating Scale-IV - Checklists, Norms, and Clinical Interpretations*. New York: Guilford Press

Ellis, A., & Vellen, E. (1992). *When AA doesn't work For you: Rational steps to quitting alcohol*. NJ: Baricade Books, Inc.

Ellis, A., & MacLaren, C. (1998). *Rational emotive behavior therapy: A therapist's guide*. San Luis Obispo, CA: Impact.

Epstein, J. A., Botvin, G. J., & Spoth, R. (2003). Predicting smoking among rural adolescents: Social and cognitive processes. *Nicotine & Tobacco Research*, 5(4), 485-491.

463

464

- Ewing, J. A. (1984). Detecting alcoholism: The CAGE questionnaire. *Journal of the American Medical Association*, 252, 1905-1907.
- Ferguson, K., & O'Donohue, W. T. (2004). Quality improvement in behavioral healthcare in integrated settings. In N. A. Cummings, W. T. O'Donohue, & K. E. Ferguson (Eds.), *Behavioral health as primary care: Beyond efficacy to effectiveness* (pp. 165-188). Reno, NV: Context Press.
- Free, M. L. (1999). *Cognitive therapy in groups: Guidelines and resources for practice*. Chichester: Wiley.
- Gadow, K.D., & Sprafkin, J. (2002). *Childhood Symptom Inventory-4 screening and norms manual*. Stony Brook, NY: Checkmate Plus.
- Hayes, S. C., Barlow, D. H., & Nelson-Gray, R. O. (1999). *The scientist practitioner: Research and accountability in the age of managed care* (2nd ed.). Boston: Allyn and Bacon.
- Heinberg, R. G., & Becker, R. E. (2002). *Cognitive-behavioral group therapy for social phobia: basic mechanisms and clinical strategies*. New York: Guilford Press.
- Kobak, K. A., & Reynolds, W. M. (2000). The Hamilton depression inventory. In M. E. Maruish (Ed.) *The Use of Psychological Testing for Treatment Planning and Outcomes Assessment, Second Edition, Volume 2*. Mahwah, NJ: Erlbaum Associates.
- Lebowitz, B. D., Pearson, J. L., Schneider, L. S., Reynolds, C. F., Alexopoulos, G. S., Bruce, M. L., et al. (1997). Diagnosis and treatment of depression in late life. Consensus statement update. *Journal of the American Medical Association*, 278, 1186-1190.
- Lewinsohn, P. M., Munoz, R. F., Youngren, M. A., Zeiss, A. M. (1992). *Control your depression*. New York: Fireside/Simon & Schuster.
- MacDonald, M., & Wright, N. E. (2002). Cigarette smoking and the disenfranchisement of adolescent girls: A discourse in resistance? *Health Care for Women International*, 23(3), 281-305.
- Martell, C. R., Addis, M., & Jacobson, N. (2001). *Depression in context: Strategies for guided action*. New York: Norton & Company.
- Mayfield, D., McLeod, G., & Hall, P. (1974). The CAGE questionnaire: validation of a new alcoholism screening instrument. *American Journal of Psychiatry*, 131(10), 1121-1123.
- Miller, W. R., & Rollnick, S. (1991). *Motivational interviewing: Preparing people to change addictive behavior*. New York: The Guilford Press.
- Nadeau, K. G., Dixon, E. B., & Rose, J. (1997). *Learning to slow down and pay attention: A book for kids about ADD* (2nd ed.). Magination Press.
- Nathan, P. E., & Gorman, J. M. (Eds.) (1998). *A guide to treatments that work*. New York: Oxford University Press.
- O'Donohue, W., & Fisher, J. (in preparation). Practice guidelines for evidence based psychotherapy.
- O'Donohue, W., Fisher, J., & Hayes, S. (Eds.) (2003). *Cognitive behavior therapy: applying empirically supported techniques in your practice*. Hoboken, NJ: John Wiley & Sons
- Shear, M. K., Brown, T. A., Barlow, D. H., Money, R., Sholomskas, D. E., Woods, S. W., et al. (1997). Multicenter collaborative panic disorder severity scale. *American Journal of Psychiatry*, 154(11), 1571-1575.
- Shriver, M. D. (1998). Teaching parenting skills. In T. S. Watson, & F. M. Gresham (Eds.), *Handbook of child behavior problems* (pp. 165-182). New York: Plenum Press.
- Skinner, H. A., & Horn, J. L. (1984). *Alcohol dependence scale: User's guide*. Toronto:

465

466

Addiction Research Foundation, 1984.

- Skinner, H. A. (1982). The drug abuse screening test. *Addictive Behaviors*, 7(4), 363-371.
- Spitzer, R. L., Williams, J. B., Kroenke, K., Linzer, M., deGruy, F. V. (3rd), Hahn, S. R., et al. (1995). Utility of a new procedure for diagnosing mental disorders in primary care. The PRIME-MD 1000 study. *American College of Physicians*, 122(3), 73.
- Tarter, R. E., & Hegedus, A. M. (1991). Drug use screening inventory: Its applications in the evaluation and treatment of alcohol and other drug abuse. *Alcohol Health and Research World*, 15(1), 65-75.
- Thompson, B., Thompson, A., Thompson, J., Fredrickson, C., & Bishop, S. (2003). Heavy smokers: A qualitative analysis of attitudes and beliefs concerning cessation and continued smoking. *Nicotine & Tobacco Research*, 5(6), 923-933.
- Wakefield, P. J., Williams, R. E., Yost, E. B., & Patterson, K. M. (1996). *Couple therapy for alcoholism: A cognitive behavioral treatment manual*. New York: The Guilford Press.
- Watson, T. S., & Gresham, F. M. (1998). *Handbook of child behavior therapy*. New York: Plenum Press.
- World Health Organization. (1992). *International Statistical Classification of Diseases and related health problems* (10th ed.). Geneva: Author.
- Zung, W. W. K. (1965). A self-rating depression scale. *Archives of General Psychology*, 12, 63-70.

467

研究成果の刊行に関する一覧表

著書

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
熊野宏昭	パニック障害と社会不安障害.	小山司	社会不安障害治療のストラテジー	先端医学社	東京	2005	76-79
原井宏明、毛利伊吹	社会不安障害の社会的コストへの影響	小山司	社会不安障害治療のストラテジー	先端医学社	東京	2005	27-33
塩入俊樹	併症を伴った社会不安障害：その他の疾患と合併した社会不安障害－アルコール依存症、摂食障害など－.	小山司	社会不安障害治療のストラテジー	先端医学社	東京	2005	89-96

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sakai Y, Kumano H, Nishikawa M, Sakano Y, Kaiya H, Imabayashi E, Ohnishi T, Matsuda H, Yasuda A, Sato A, Diksic M, Kuboki T	Cerebral glucose metabolism associated with a fear network in panic disorder.	NeuroReport	16(9)	927-931	2005
Nishikawa M, Sakai Y, Kumano H, Sakamoto N, Otani M, Kuboki T	Brain glucose metabolism in panic disorder—A PET study.	J Psychosomat Res	58	S24	2005
Okazaki Y, Nishimura Y, Inoue K, Kajiki N, Nishida A, Tanii H, Kaiya H	Brain Frontal hypoactivity during word fluency task in Patients with panic disorder: a NIRS study.	J Psychosomat Res	58	S23	2005
Sasaki T, Umekage T, Sugaya N, Yoshida E, Tanii H, Kaiya H, Okazaki Y	Susceptibility gene study of panic disorder in Japanese.	J Psychosomat Res	58	S24	2005
Isogawa K, Akiyoshi J, Kodama K, Matsushita H, Tsutsumi T, Funakoshi H, Nakamura T.	Anxiolytic effect of hepatocyte growth factor infused into rat brain.	Neuropsychobiology.	51(1)	34-38	2005
Isogawa K, Fujiki M, Akiyoshi J, Tsutsumi T, Kodama K, Matsushita H, Tanaka Y, Kobayashi H.	Anxiolytic suppression of repetitive transcranial magnetic stimulation-induced anxiety in the rats.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry.	29(5)	664-668	2005

Shioiri T, Kojima-Maruyama M., Hosoki T, Kitamura H, Tanaka A., Bando T, Someya T.	Dysfunctional baroreflex regulation of sympathetic nerve activity in remitted patients with panic disorder: a new methodological approach.	European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience	225(5)	293—298	2005
Tochigi M, Umekage T, Sasaki T 他	Association between the CRHR2 gene polymorphism and personality traits.	Psychiatry Clin Neurosci	In press		
Tochigi M, Sasaki T 他	Association between DRD4 exon III polymorphism and neuroticism in the Japanese population.	Neurosci Lett	In press		
Ohtani T, Umekage T, Sasaki T 他	Sensitivity to seasonal changes in panic disorder patients.	Psychiatr Clin Neurosci	In press		
Tochigi M, Umekage T, Sasaki T 他	Combined analysis of association between personality traits and three functional polymorphisms in the TH, MAO-A and COMT genes.	Neurosci Res	In press		
Kaiya H, Umekage T, Okazaki Y, Sasaki T 他	Factors associated with the development of panic attack and panic disorder: a survey in the Japanese population.	Psychiatr Clin Neurosci	59	177-82	2005
Tochigi M, Umekage T, Sasaki T 他	Serotonin 2A receptor gene polymorphism and personality traits: no evidence for significant association.	Psychiatric Genet	15	67-9	2005
Kato C, Umekage T, Sasaki T 他	The XBPI gene polymorphism and personality	Am J Med Genet	136B	103-105	2005

Koizumi H, Hashimoto K, Shimizu E, Iyo M, Mashimo Y, Hata A.	Further analysis of microsatellite marker in the BDNF gene.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet.	135(1)	103	2005
Kobayashi K, Shimizu E, Hashimoto K, Mitsumori M, Koike K, Okamura N, Koizumi H, Ohgake S, Matsuzawa D, Zhang L, Nakazato M, Iyo M.	Serum brain-derived neurotrophic factor (BDNF) levels in patients with panic disorder: as a biological predictor of response to group cognitive behavioral therapy.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	29(5)	658-663	2005
Shimizu E, Hashimoto K, Koizumi H, Kobayashi K, Itoh K, Mitsumori M, Ohgake S, Okamura N, Koike K, Matsuzawa D, Zhang L, Kumakiri C, Nakazato M, Komatsu N, Iyo M.	No association of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene polymorphisms with panic disorder.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	29(5)	708-712	2005
Matsuzawa D, Hashimoto K, Shimizu E, Fujisaki M, Iyo M.	Functional polymorphism of the glutathione peroxidase 1 gene is associated with personality traits in healthy subjects.	Neuropsychobiology	52(2)	68-70	2005
Shimizu E, Hashimoto K, Ohgake S, Koizumi H, Okamura N, Koike K, Fujisaki M, Iyo M.	Association between angiotensin I-converting enzyme insertion/deletion gene functional polymorphism and novelty seeking personality in healthy females.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry.	30(1)	99-103	2006

Shiina A, Nakazato M, Mitsumori M, Koizumi H, Shimizu E, Fujisaki M, Iyo M.	An open trial of outpatient group therapy for bulimic disorders: combination program of cognitive behavioral therapy with assertive training and self-esteem enhancement.	Psychiatry Clin Neurosci.	59(6)	690-696	2005
Hanaoka A, Kikuchi M, Komuro R, Oka H, Kidani T, Ichikawa S.	EEG coherence analysis in never-medicated patients with panic disorder	Clin EEG Neurosci.	36(1)	42-48	2005
竹内龍雄、高橋千佳	パニック障害とストレス対応	ストレスと臨床	(23)	11-14	2005
原井宏明	臨床技法別「してはいけないこと」 認知行動療法2つのケーススタディ	精神科臨床サービス	5	351-356	2005
佐々木司、貝谷久宣	パニック障害には薬物療法が有効である	治療	87	1335-8	2005

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
 「パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定」

第 1 回 パ ニ ッ ク 障 害 研 究 班 会 議 プ ロ グ ラ ム

（平成17年9月26日（月）：東京大学医学部教育研究棟13階第3セミナー室）

1. 主任研究者挨拶	9:10	東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学助教授		熊野 宏昭	
2. 厚生労働省担当者挨拶	9:20	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課主査		黒木 識敬	
3. 研究発表	TIME	分担研究者名	所属施設	研究協力者, 他	発表演題
セッション1：座長 竹内 龍雄（帝京大学医学部附属市原病院精神科教授）					
1	9:30	大野 裕	慶應義塾大学保健管理センター教授		精神疾患の受診経路に関する研究
2	9:50	原井 宏明	国立療養所菊池病院臨床研究部長	橋本 加代、岡嶋 美代	プライマリメンタルヘルスケアにおけるストレス関連障害の診療の質の改善
3	10:10	竹内 龍雄	帝京大学医学部附属市原病院精神科教授	高橋 千佳	パニック障害患者のQOLとストレス対処
セッション2：座長 野村 忍（早稲田大学人間科学学術院教授）					
4	10:30	野村 忍	早稲田大学人間科学学術院教授	吉田菜穂子、貝谷久宣、（井澤修平、Douglas Eames、中興文、河合隆史、太田啓路、李在麟）	パニック障害治療用VRソフトウェアの開発とその治療効果の検討
5	10:50	清水 栄司	千葉大学大学院医学研究院精神医学助教授	小林 圭介	パニック障害の集団認知行動療法パッケージの有効性の検証と治療反応性に関する因子の検討
6	11:10	熊野 宏昭	東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学助教授	瀧本 禎之、坂本 典之、吉内 一浩、久保木富房、貝谷 久宣	Ecological Momentary Assessment法を用いた日常生活下での評価

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
「パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定」

7	11:30	坂野 雄二	北海道医療大学 心理科学部臨床 心理学教授	(陳 峻文)	パニック障害に対する認知行動 療法の効果
セッション3：座長 塩入 俊樹（新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野助教授）					
8	11:50	井上 雄一	財団法人神経研 究所研究部長	岡靖 哲	パニック障害と睡眠生理の関係 に関する研究
9	12:10	平安 良雄	横浜市立大学大 学院医学研究科 精神医学教室教 授	早野 富美	パニック障害におけるMRI形態 解析研究の経過報告
4. 食事	12:30	食 事			
10	13:30	塩入 俊樹	新潟大学大学院 医歯学総合研究 科精神医学分野 助教授	北村 秀明、阿部 亮	パニック障害患者の自律神経異 常と脳内グルタミン酸異常
11	13:50	佐藤 典子	国立精神・神経 センター武蔵病 院放射線診療部 部長	坂本 典之、西川 将巳、熊貝 野 宏昭、久保木 富房、貝 谷 久宣	パニック障害患者の脳機能異常 に対する薬物療法による正常化 —PETを用いた機能的脳画像解 析研究
セッション4：座長 穉吉 條太郎（大分大学医学部精神神経医学教室助教授）					
12	14:10	岡崎 祐士	三重大学医学部 精神神経科学講 座教授	西村幸香、佐々木司、梅景 正、貝谷久宣、（谷井久 志、梶木直美、西田淳志、 井上顕、垣内千尋、加藤忠 史）	パニック障害の脳画像及びゲノ ム解析研究
13	14:30	長澤 達也	金沢大学医学部 附属病院神経科 精神科助手	木谷 知一	パニック障害に対する定量脳波 解析による検討—未服薬例に対 するLORETA解析—
14	14:50	穉吉 條太郎	大分大学医学部 精神神経医学教 室助教授	北市 智子	パニック障害における脳画像・ 遺伝・行動研究
15	15:10	佐々木 司	東京大学保健セ ンター精神科助 教授	音羽健司、梅景正、穉吉條 太郎、野村忍、貝谷久宣、 （岡崎祐士、菅谷渚、栃木 衛、大溪俊幸、安田新、谷 井久志、吉田栄治）	パニック障害の関連遺伝子探索
5. 討議	15:30	討 議			
6. 閉会	16:00	閉 会			

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
「パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定」

第 2 回 パ ニ ッ ク 障 害 研 究 班 会 議 プ ロ グ ラ ム

（平成18年2月27日（月）：東京大学医学部研究科教育研究棟13階第3セミナー室）

1. 主任研究者挨拶	9:10	東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学助教授		熊野 宏昭	
2. 厚生労働省担当者挨拶	9:20	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課主査		黒木 識敬	
3. 研究発表	TIME	分担研究者・研究協力者名	所属施設	研究協力者、他	発表演題
セッション1：座長 貝谷 久宣（医療法人和楽会理事長）					
1	9:30	大野 裕	慶應義塾大学保健管理センター教授		パニック障害の受診経路に関する研究
2	9:50	原井 宏明	独立行政法人国立病院機構 菊池病院臨床研究部長	（橋本 加代、岡嶋 美代、William T. O'Donohue、増田 暁彦）	パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定－プライマリメンタルヘルスケアにおけるストレス関連障害の診療の質の改善；現状と統合的治療プロトコールに向けて
3	10:10	野村 忍	早稲田大学人間科学学術院教授	吉内 一浩、貝谷 久宣、（吉田 菜穂子、井澤 修平、Douglas Eames、中奥 文、河合 隆史、太田 啓路、李 在麟）	パニック障害エクスポージャー治療用VRソフトウェアの開発とその治療効果の検討
4	10:30	清水 栄司	千葉大学大学院医学研究院精神医学助教授	小林 圭介	パニック障害の集団認知行動療法の治療反応性に影響を与える因子の検討
セッション2：座長 平安 良雄（横浜市立大学大学院医学研究科精神医学教室教授）					
5	10:50	佐々木 司	東京大学保健センター精神科助教授	栃木 衛、種吉 條太郎、野村 忍、貝谷 久宣（梅景 正、音羽 健司、菅谷 渚、大溪 俊幸、安田 新、谷井 久志、吉田 栄治、岡崎 祐士）	パニック障害の関連遺伝子探索研究と症状の季節性に関する研究
6	11:10	種吉 條太郎	大分大学医学部精神神経医学教室助教授	花田 浩昭	パニック障害の遺伝・行動・脳画像研究

平成17年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
「パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定」

	7	11:30	(岡崎 祐士)	三重大学医学部 精神神経科学講 座教授	西村 幸香、貝谷 久宣 (谷井 久志、梶木 直 美、西田 淳志、井上 顕、垣内 千尋、加藤 忠 史)	パニック障害のNIRS及び脳画像 による検討
4. 食事		11:50	食 事			
セッション3：座長 井上 雄一（財団法人神経研究所研究部長）						
	8	12:50	井上 雄一	財団法人神経研 究所研究部長	(岡靖 哲)	パニック障害患者の生態リズム 指標と睡眠構造に関する研究
	9	13:10	平安 良雄	横浜市立大学大 学院医学研究科 精神医学教室教 授	早野 富美	パニック障害におけるMRI形態 解析研究の経過報告
	10	13:30	長澤 達也	金沢大学医学部 附属病院神経科 精神科助手	菊知 充、(木谷 知一)	未服薬パニック障害患者の脳波 -Power, LORETAおよび Coherence解析による統合的検 討-
	11	13:50	塩入 俊樹	新潟大学大学院 医歯学総合研究 科精神医学分野 助教授	北村 秀明、阿部 亮	パニック障害における自律神経 系調節と前頭葉活動の関連性 について
セッション4：座長 清水 栄司（千葉大学大学院医学研究院精神医学助教授）						
	12	14:10	佐藤 典子	国立精神・神経 センター武蔵病 院放射線診療部 部長	坂本 典之、西川 将巳、 熊野 宏昭、久保木 富 房、貝谷 久宣	パニック障害の脳機能異常に対 する塩酸パロキセチン薬物療法 による正常化- PETを用いた機 能的脳画像解析-
	13	14:30	熊野 宏昭	東京大学大学院 医学系研究科ス トレス防御・心 身医学助教授	瀧本 禎之、坂本 典之、 吉内 一浩、久保木 富 房、貝谷 久宣	Ecological Momentary Assessment法を用いた パニック障害患者の日常生活下 での自覚症状および生理機能の 評価
	14	14:50	竹内 龍雄	帝京大学医学部 附属病院市原病 院精神科教授	高橋 千佳	パニック障害患者のQOLとスト レス・コーピング
	15	15:10	坂野 雄二	北海道医療大学 心理科学部臨床 心理学教授	(陳 峻文)	パニック障害に対する認知行動 療法の効果
5. 討議		15:30	認知行動療法マニュアル作成に関する話し合い（司会 熊野 宏昭）			
6. 閉会		16:00	閉 会			